

2022.12.26 | VOL. 2

まちなか再生ビジョン 検討委員会

ワークショップの概要編

ビジョンマップ
の作成に向けて

6

6月から10月まで全6回開催したワーク
ショップを一つの冊子にまとめました。
検討委員会の皆さんのが歩みをぜひご覧く
ださい。



第1回ワークショップ

6月23日（木）

『オープニング～ビジョンマップの背景と経緯～』

第2回ワークショップ

7月14日（木）

『まちなか資源を掘り起こそう』

第3回ワークショップ

8月4日（木）

『まちなか再生の仲間づくり』

第4回ワークショップ

9月1日（木）

『まちなかの「お客様と暮らし」を想像する』

第5回ワークショップ

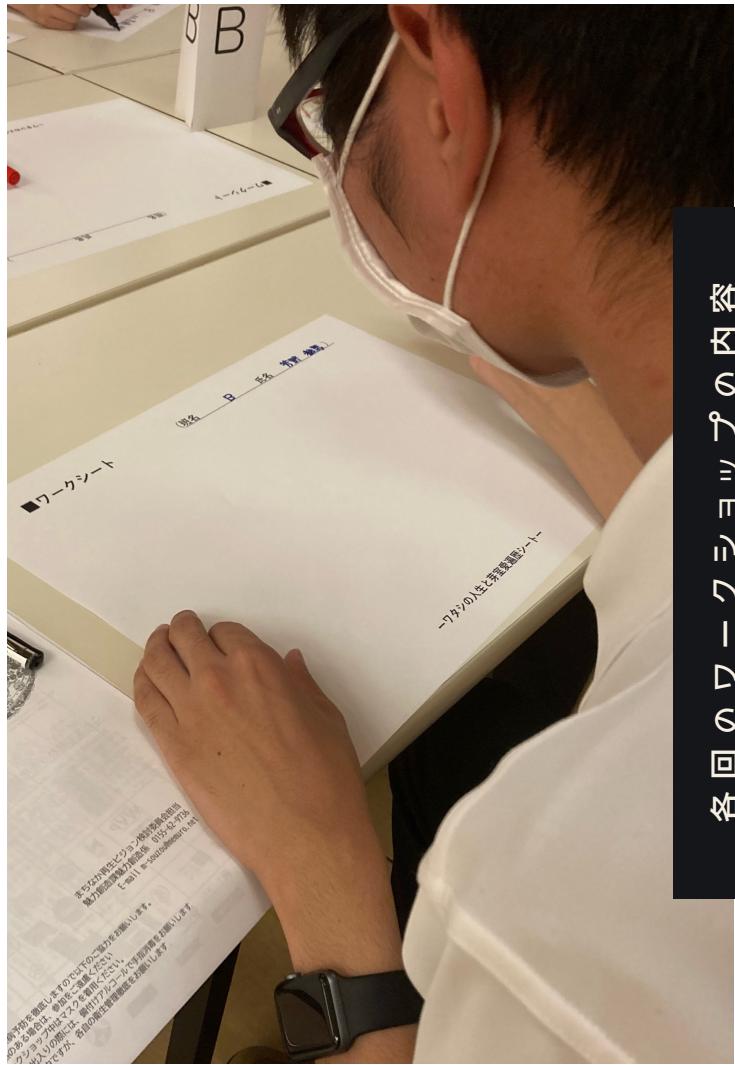
9月22日（木）

『未来のシーン・ビジョンを考えよう』

第6回ワークショップ

10月13日（木）

『まちなかビジョンをかたちにしよう』



第1回ワークショップ 6月23日（木）参加者19名

テーマ：オープニング～ビジョンマップの背景と経緯～

趣旨：地域創生・まちなか再生における目的とビジョンの共有

成果物：人生紹介と芽室愛遍歴シート

【内容】

●まちなか再生事業の受託業者であるジェイアール東日本企画の山本氏からまちなか再生幕開けフォーラムの振り返りと、まちなか再生事業の今後の進め方、令和2年に作成したビジョンマップがどのようにして出来上がつていったのかなどをお話をいただいた。

●ワークショップ(WS)は、3課(魅力・政策・商工)若手×メンバーが2人1組で各グループのファシリテーターを務め、ワークシートの作成(人生紹介と芽室愛遍歴)、発表を行った。

第2回ワークショップ

7月14日（木） 参加者21名

テーマ：まちなか資源を掘り起こそう

趣旨：現在に加え過去にあったまちの行事、サービスの発掘

成果物：まちなか魅力発掘シートの一部

【内容】

- 個人ワークでは、町民の方が所有している約30年前の芽室町の中心市街地の地図を活用し、まちなか魅力発掘シートの「地元の紹介、産地の特徴」「事業者・施設・場所等の歴史（今と歴史）」「商品・サービス・情報の特徴（素材・技術・文化等）」を作成してグループ内で共有し、全体発表を行った。まとめの方法はグループごと様々で、魅力発掘シートの項目ごとにまとめたグループもあれば、「人」を中心に「食」「育」「遊」「住」に分類してまとめたグループもあった。
- 全体共有後は、まちなか行事洗い出しシートを各自作成した。シートは過去の掘り出しあるため、可能な範囲で次回までに各自調査し、作成することとした。
- 全体のカリキュラム終了後に、役場3課若手プロジェクトチームから小中高生世代への意見聴取を開始したことを伝え、検討委員の中で自身の店舗等でのポスターの掲示を依頼した。





第3回ワークショップ 8月4日（木）参加者21名

テーマ：まちなか再生の仲間づくり

趣旨：地域資源を取り巻くネットワークの整理・発掘

成果物：まちなか行事洗い出しシート

【内容】

- まちなか再生のポスターや動画を見て、高校生1名が新たに参加した。
- 第2回WSの宿題であったまちなか行事洗い出しシートの芽室町の過去や現在開催しているイベントを発表し、グループ内でのまとめと全体発表を行った。検討委員の中には図書館で調査を行い、芽室町在住歴が長い町民も知らなかった過去のイベントを調査した方もいた。
- 山本氏から地方創生プロジェクトにおける消費者視点の3ステップとして「知りたい」「行きたい」「住みたい（関わりたい）」が、事業者視点として①地産②外消③地引（ちいん）④地消サイクルの確立の4ステップが必要であり、地産・外消・地引・地消を回すために必要な機能と組織としてカレッジ「考える（生涯顧客と成長し続ける場づくり）」、インキュベーション「産み出す（生涯顧客とつながるもの・コトづくり）」、地域商社「伝える（生涯顧客に伝える仕組みづくり）」、DMO「受入れる（生涯顧客を受け入れる環境づくり）」の段階的マーケット化支援カリキュラムを構築し、生涯顧客の獲得につなげることが重要であると説明を受けた。
- 地域内外をつなぐための4つの流れ①地域内でつくる、②地域外へ宣伝・売る、③地域外から地域内へ誘客、④地域内で売る、の4つの流れを作り、リピーターの増加から住みたいと思える町（まちなか再生）につなげるため、「プロダクトデザイン」「継承学連携」「全体コンセプト」「広報」「販路」「地元サポーター」の5つの視点で、検討委員がつながっている地域内外の仲間を書き出した。時間の都合上、書き出した範囲内でグループ内共有し、残りは次回までの宿題とした。

第4回ワークショップ

9月1日（木） 参加者16名

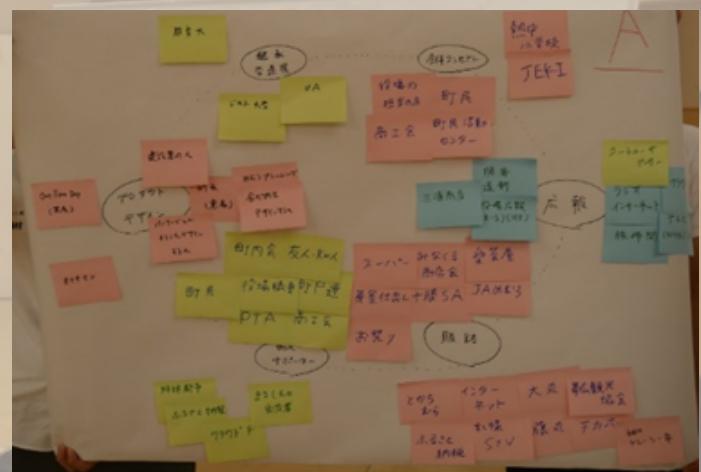
テーマ：まちなかの「お客様と暮らし」を想像する

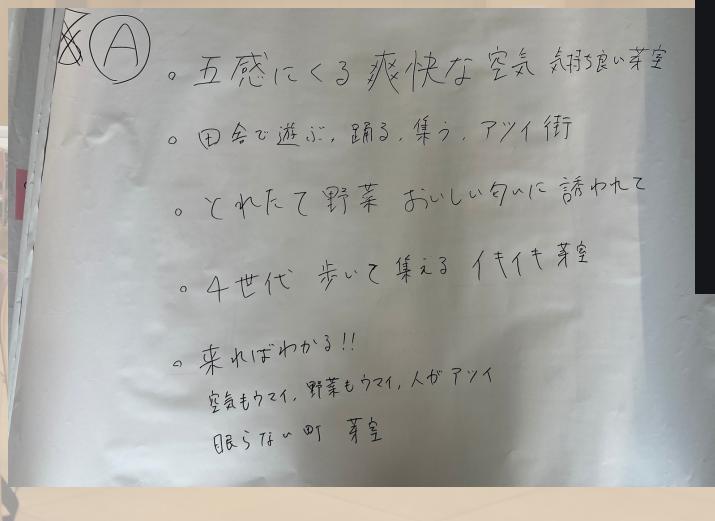
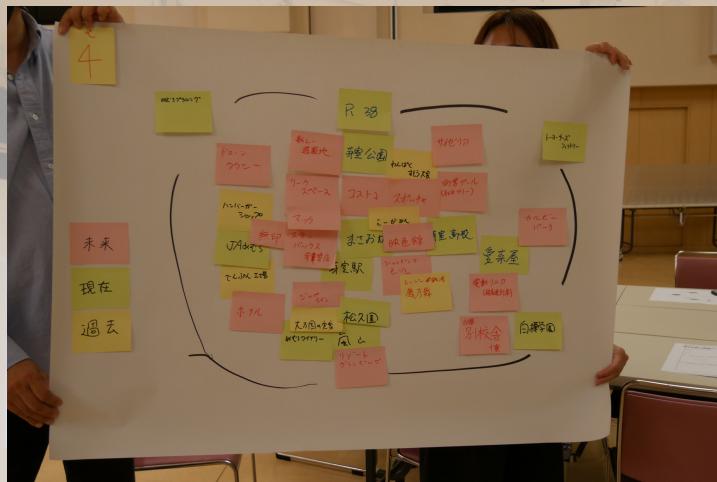
趣旨：地域住民を中心ターゲットと捉えたシーンの設定

成果物：仲間シート、魅力発掘シート

【内容】

- 前回WSの宿題の各自の仲間を発表し、グループ内でのまとめと全体発表を行った。
- 今から28年後である2050年のまちなかを想像し、×インターゲットは何処、誰かと、そのターゲットがどのようなシーンで何をしているかを第2回WSで使用した魅力発掘シートの空白の箇所（項目1「マーケット＆ターゲット」、5「消費者・利用者の使用シーンの提案」）に記入し、グループでまとめて全体発表した。
- 各グループからは「人口減少や高齢化がより進む中、デジタル化や様々な技術は進んでいく。もちろん生活スタイルや働き方（ワーケーションなど）も変わってくるが、そんな中でも、体験型のものや憩いの場などの人間らしさやぬくもりを感じるもののは求められる」といった発表があった。





第5回ワークショップ 9月22日(木) 参加者10名

テーマ：未来のシーフン・ビジョンを考えよう

趣旨：ビジョンマップの下地づくり

成果物：現在過去未来入り地域マップ、地域マップのキャッチフレーズ、魅力発掘シート

【內容】

- 各グループでまちなかの範囲を決め、その範囲の過去・現在・未来の「こと・場所」について意見を出し合い現在過去未来入り地域マップを作成し、全体発表を行った。
 - 各グループが思い描いた地域マップ（将来展望）を体験的価値として言葉で伝えるため、参加者がキーワードを出し合ってディスカッショノし、キーワードを膨らませていきキャッチフレーズを作った。
 - 次回のWSでは、キャッチフレーズを基に、ビジョンマップの原案を作成していく。

第6回ワークショップ

10月13日(木) 参加者10名

テーマ：まちなかビジョンをかたちにしよう

趣旨：ビジョンマップ仕上げ

成果物：まちなか再生ビジョンマップの原案

【内容】

- グループごとに、前回のWSで考えた地域マップとキヤッチフレーズをイラストにするため、前回の成果品を基に20年後の芽室町を連想し、ビジョンマップの原案となるイラストの作成とそのイラストのキヤッチフレーズを考案した。作成後はキヤッチフレーズとイラストの概要を全体に共有した。
- 各グループで妄想を膨らませ、既存の資源の利活用による価値創造や新たな場所・モノ・移動手段の創出をしており、20年後の町民が老若男女問わず楽しく笑顔があふれるまちをイメージしていた。
- 最後に山本氏から講評をいただいた。今後の流れと今回作成したイラストを検討委員会から町への政策提言として承り、ビジョンマップの作成と政策実現に向けた計画の策定を行うことを伝えた。

